



Be creative !

人の孤独を癒すもの、それは“人”しかいない

吉藤オリィ (オリィ研究所所長)

社会福祉法人昭徳会は、創立110周年を迎えます。始祖杉山辰子先生が大正元年に仏教感化救済会内に「育児院」を創設し、物心両面から経済的に恵まれない子の養護や被虐待児の保護等に取り組んだことを皮切りに、現在では児童分野のみならず、高齢者、障害者の分野にも事業を拡げて、社会に貢献をしています。初代理事長は本学園創設者の鈴木修学先生です。『日本の福祉を築いたお坊さん』の中でも紹介されていますね。現在では、学園長の鈴木正修先生が理事長の任に就いていらっしゃいます。10月1日の午後、その記念式典が法音寺で開催され、分身ロボットの研究開発に携わっていらっしゃる吉藤オリィさんが記念講演を行いました。吉藤さんには、今から6年前、本校の3年生を対象に特別授業を行っていただいたことがあります。その講演内容はホームページにもアップされていますが、改めて皆さんに紹介をしたいと思います。(写真はすべて6年前、本校での特別授業の時のものです。)



▼病気・不登校に悩む自分を救ってくれた人生の師との出会い 幼いころ、身体が弱く、不登

校が続く中、2週間天井を見続けて生活をしたという吉藤さん。天井の模様を覚えてしまうほど見つめ続けた。久しぶりに自分を訪ねてくれた友達にどう語りかけていいのかわからないのか、笑いかけていいのかわからないのか、日本人なら忘れるはずのない日本語が出てこなかったという体験をしたと言います。そんな時、自分を表現する唯一のものは「折り紙」でした。その後、手先の器用さを生かして、モノづくりに没頭していきます。このモノづくりを通して、吉藤さんは「人生の師匠」とも言うべき先生に導かれ、高校に進学、自分の得意分野を生かしてのものづくり、人工知能の研究にのめりこんでいくこととなります。「高校の勉強ですか、うれしかったですよ。なんて言ったら鉛筆よりもはんだごてを持っている時間の方が圧倒的に長かったですから。」これは今回の講演で吉藤さんがおっしゃったことです。



▼人工知能は人を救うのか 障害があるがゆえに行動を制限され、他の人たちとの接触を断たれて

いる人たちがいる。人工知能を活用すれば、確かにできなかったことができるようになる。それは喜びに違いないが、その人の孤独そのものを救うことになるのか。吉藤さんの研究のテーマに「孤独」が位置付けられていきます。吉藤さんは自分自身の体験から次のように考えます。孤独にさいなまれた自分自身の小・中学時代。その自分を孤独から解き放ったものはいったい何だったのか。自分自身の人生を大きく展開させていった鍵を握っていたものはいったい何だったのか。吉藤さんは自分自身の体験から答えを導き出していきます。一つは高校の先生との出会いです。モノづくりで世界的な賞を獲得した吉藤少年は、そこでノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊先生や魅力的な早稲田大学の先生方とも出会い、やがて彼は早稲田大学へと進学します。自分の歩みを振り返れば、必ずそこに自分を支え、励ます人がいた。この気づきは彼の研究の方向性を決め、発展させる契機となっていきます。

▼君がそこにいること 「本当の癒しは人と人との間にしかないのではないか。本当に人の役に立つこ

とをやりたい」と考え、彼は研究所を立ち上げ、分身ロボット OriHime の研究に取り組んできました。分身ロボット OriHime のコンセプトは「ロボットと人ではなく、人と人をつなぐロボット」。カメラ・マイク・スピーカーが搭載されており、家や会社など自分が行きたいところにこのロボットを置き、インター

ネットを通して操作します。人間の根源的な要求とは何だろう…「そこに自分が存在し、人のために役立ちたい、必要とされたい」ということなのでは…。これが、吉藤さんがたどり着いた結論です。いまでは、この OriHime を活用して健常者はもちろん、何人もの障害をもった方たちがプロジェクトに参加されています。6年前の本校の特別授業にも山形から研究所の一員の番田雄太さんが参加され、OriHime を通して生徒たちに自分の思いを届けてくださいました。番田さんは4歳の時に交通事故に遭い、頸椎損傷、寝たきりの生活を余儀なくされます。「常に考え続ける」「自分がいいと思ったことは貫け!」「明日生きるために、今日、何もしないのではなく、今日を充実させるために、自分で選択しつづけて生きる」。番田さんは、生徒たちの心に大きなインパクトを残してくださいました。その翌年、私たちのもとに番田さんの訃報が届きます。まさに「今日」を精一杯生きた人でした。貴重な出会いに感謝しかありません。



▼「壮大な社会実験に取り組んでいます」—未来へ 『分身ロボットカフェDAWN verβ』は

株式会社オリイ研究所が運営するカフェです。昨年の6月に東京・日本橋にオープンしました。どうぞ、興味のある人はネットで検索してみてください。カフェの様子だけでなく、なぜ、この取り組みを始めたのかなど、詳細な説明がされています。「僕たちにとっては、壮大な社会実験の場なのです。ぜひ、東京にお越しの折には足を運んでみてください。」と吉藤さん。今後の活躍にぜひ、期待を寄せたいと思います。



余談ですが、自分自身が撮影した写真ながら、私はこの左の写真が大好きです。吉藤さんの講義の後、短い時間でしたが質問タイムを取りました。一人の女子生徒が手を挙げて発言した、その時のみんなの視線が吉藤さんに注がれていることがわかります。吉藤さんのお話がよほど印象深かったのでしょうか。大学も卒業し、彼らは今、どんな社会人になっているのでしょうか。彼らの成長にも期待を寄せたいと思います。

体育祭がやってきますね! 🍁 🍂 🍃 🍄 🍅 🍆 🍇 🍈 🍉 🍊

朝夕、秋らしい風の吹く日々がやってまいりました。今、2年生のスポーツコースの皆さんが体育祭の準備に懸命に取り組んでいます。今年は本格的に「縦割り集団」での競技に取り組めます。合同ホームルームの1回目は10月7日(金)中間試験明けの3時間目。まずはアイスブレイキング。チームビルディングの第一歩として、ゲーム「バースティライン」に取り組めます。120名の生徒の皆さんが身振り手振りで(おしゃべりは禁止です)正しく1月から12月まで誕生日順に並ぶことができるのでしょうか。クラス対抗からブロック対抗へ。このブロックのまとまりが新たな本校の魅力となることを願っています。クラスの枠を超え、みんなが手をつなぎ、肩を組み合わせる取り組みが始まります。



🍌 今月の言葉 🍌 村上選手56号ホームラン記録達成!

「ほんの少しですが、記録に関われたことがうれしい。改めてプロ野球のすごさと楽しさを実感させてもらい、感謝しかない。それでも村上選手にとっては通過点でしょう。これからも私たちに夢を見せてほしい。」—ヤクルト村上宗隆選手のバットを製作する職人 名和民夫さん(岐阜・養老町)

名和さんは村上宗隆選手を「バットに対する考え方と意見をしっかりと持っている人」と評価する。村上選手は、大リーグで活躍する大谷翔平選手と同様、過去の偉大な選手の大記録を塗り替えた。最年少三冠王にも輝いた。この22歳の若武者に、心からの拍手を送りたい。